

## 研修報告

### Trainee Report

# 欧州事務所（独フランクフルト）研修報告

及川俊一\*

## My Experience as a Trainee at the Europe Office in Frankfurt, Germany

Shunichi OIKAWA

### 1. 研修の経緯

まず初めに、大同特殊鋼(株)（以下、当社という）における海外トレーニー制度について説明させて頂く。当社には、入社4年目以降の社員を対象に外国における現地法人および当社の現地駐在員事務所にて、業務を通じ、海外の文化、言語、ビジネス慣習を経験させるグローバル人材育成の制度がある。

さて、海外トレーニーを希望するに至った経緯であるが、入社1年目以降からほぼ1年に1度、航空機製品を熱処理するための外部認証のため、英語による監査を受ける部署に所属していたことが発端である。その監査では主に海外トレーニー経験者の方々の語学力を借りながら、時には自分の拙い英語で説明を行い、監査を何度も経験するうちに、いつかは自分の語学力で監査員とやり取りがしたいという気持ちが日に日に強くなっていった。そんな気持ちがさらに強くなったのは、部署が変わり、通常業務においても海外顧客スペックの読み込みや英語での仕様書、報告書作成、海外出張をさせて頂くなど、英語に触れる頻度が多くなり、これまで以上に語学力が必要と感じるようになったため、この制度に応募し、2017年末から約1年間の研修機会を与えて頂いた。

私が御世話になった欧州事務所（Fig. 1）は、テクニカルサービスセンターであり、欧州事務所自体の人数は2名であったが、当社グループ企業の DAIDO KOGYO EUROPE GmbH（以下、DKE という）と同フロアに構

えており、お互いに連携・協力しながら業務を遂行しているため、全体では十数名の方々と接する機会を頂けた。現在では、合併し DAIDO STEEL GROUP EUROPE GmbH となり、さらに連携を強化し、意思決定の速度を上げ、当社製品の拡販活動を鋭意遂行中である。



Fig. 1. The signboard of the Daido Europe Office.

### 2. 研 修

#### 2. 1 研修先について

フランクフルトは、ドイツの中心からやや南西よりに位置するヘッセン州最大の都市であり、ドイツ全体でベルリン、ハンブルグ、ミュンヘン、ケルンに次ぐ人口76万人の第5の都市である。正式名称はフランクフルト・アム・マイン（マイン河畔のフランクフルトの意味）が示すようにライン河支流のマイン河が市内を流れている。欧州中央銀行をはじめ、その他大手銀行の本店、証券取引所、外資系金融機関が軒を連ねる金融都市であ

2021年4月12日 受付

\* 大同特殊鋼(株)渋川工場 (Shibukawa Plant, Daido Steel Co., Ltd.)

る。また、ヨーロッパ屈指のハブ空港、鉄道についてもヨーロッパ最大級のターミナル駅、世界三大モーターショーの一つのフランクフルトモーターショーが開催される世界最大の見本市会場があり、産業・交通の要衝でもある。このような近代的な施設が多く存在するが、一方で市街地にも緑が多く、壮大な公園や植物園があり、散歩をする人も多く、心地よい環境である。また旧市街地の観光名所であるレーマー広場、大聖堂、旧オペラ座 (Fig. 2) などの歴史的建築物もあり、古さと新しさが混在する街である。

ご存知のとおりブンデスリーガ強豪であるアイントラハト・フランクフルトがあり、熱狂的なファンが多く、子供を連れて観戦したが、日本では味わえないほどの熱気を感じることができた。ホームグラウンドのコメルツバンクアリーナは、2011年ドイツ女子ワールドカップでなでしこジャパンがPK戦の末、女子サッカー界の“女王”アメリカを下し、大会初優勝を飾った場所でもある。



Fig. 2. Old Opera House (top), Commerzbank-Arena (bottom).

## 2. 2 海外研修で学んだこと

研修前は、発電関係の素形材製品に関する製造技術に従事していたため、研修先では欧州全域の素形材関係の技術サービスとして、業務に携わることができた。

特に印象に残っている業務は、新規ガスタービンディスク認定取得ワークである。従来から他形状で製造・認定を頂いていたイタリアにある企業から新たに異形品を受注し、その形状での仕様・納期調整を欧州サイドで担

当させて頂いた。前述のとおり、工場業務の経験しかない筆者は、技術サービスとしての役割である、客先と工場との間を取り持ち、お互いの意見・主張を整理し、的確に伝える、というシンプルな業務に苦労した。当社側は意思共有の場の回数を増やし、営業・工場の意見を集約することで解決できたが、客先との調整での一番の難点は日本に比べ、各人の仕事の垣根が明確に区切られていることであった。担当がそれぞれ分担されているため、客先の窓口で督促しても回答を得られず、日本側の要求に応えられなかった。当初はこの商慣習に気づけず、言語の壁もあり、なかなかうまく業務を遂行することができなかった。しかし必死にコミュニケーションを取り続ける中で自然と各担当も把握でき、しだいに円滑なコミュニケーションを取れはじめ、本製造認定も、日本側の迅速な対応もあり、無事認定取得することができた。

## 2. 3 海外生活について

本研修制度は、自主性に重きを置いている部分があり、現地での滞在に必要なビザ取得、滞在先の手配、銀行口座開設など、生活に関わる基盤構築もミッションの一つであるが、本研修中は、DKEご担当の方のサポートを受け、種々の申請を滞りなく済ませ、滞在することができた。日本生まれ、日本育ちの筆者は海外生活には力強いバイタリティーを持つことが大事だと感じた。欧米諸国の多くは移民の受入れに積極的である。その人達の、自らビザ、職業を得て生活しているのを垣間見ること、自分もほんの1年足らずの期間ではあったが、同じような環境で常に緊張感を持ち、今まで以上に積極的に自分の意見を主張し、会話することを意識していた。また、いつでも商業施設が開いているなど、日本という国がいかにか恵まれているかを再認識させられた1年間であった。

## 3. 研修を終えて

貴重で有意義な経験をさせて頂き、研修前、研修中に御指導頂きました社内およびグループ会社の関係者の皆様、そして家族にはこの場を借りて御礼申し上げます。この研修により得た経験を、今後の技術開発、技術サービス業務に活かしていく。研修後は欧州のみならず、海外顧客全般の製品担当を任せられ、積極的に顧客と会話するよう意識し、当社材のさらなる海外拡販の一助となれるように製造室、営業室とともに協力、連携を強化し、迅速な対応を目指していく。



及川俊一